

川崎市制100周年記念式典

100th



川崎市誕生 100 年という大きな節目を迎えたことを、市民の皆様と共に心からお喜び申し上げます。

全国には 1,700 を超える基礎自治体があります。しかしなぜ、県庁所在地ではない自治体で唯一、人口 100 万人を超える都市として、川崎がこれだけの発展を遂げることができたのか。

一言で言うならば、それは、この街が、産業の成長とともに発展してきた、新しいことに挑戦する「ベンチャーの街」だからです。

理由は、この街の興りである川崎町は、今から約 110 年も前に、「工場の招致」に動き、富士瓦斯紡績をはじめ、今の味の素の前進である鈴木商店の誘致を実現させ、その後も多くの会社や工場が進出し、現在につながる、当時のベンチャー企業を次々と生み出しました。

しかしながら、当時の川崎町では、主に二ヶ領用水を生活用水として利用していましたが、水質は決して良いとはいえず、伝染病が蔓延し、また、多くの工場が進出した結果、大量の水が必要とされました。これらの難題を一挙に解決する方法がありました。それが、「上水道の敷設」です。水道水を飲むことは、今では当たり前ですが、当時は途方もなく壮大で、とても一町村で賄いきれるはずのない、莫大な工事予算の掛かる、一大ベンチャー事業でした。

このベンチャー事業の陣頭指揮を執ったのが、皆様御存知の、石井泰助・初代・川崎市長であります。当時、川崎町の町長を務めていましたが、「上水道の敷設」という一大プロジェクトに専念するため、町長を辞して、自ら率先し、その早期実現に挑みました。この壮大過ぎるベンチャー事業に対して、「そんなのは無理」、「非常識だ」、「夢物語」、「あきらめろ」と、心ない言葉も多くあったに違いありません。それでも、諦めずに挑戦し挑戦し続け、最終的には、市民を動かし、町を動かし、川崎で操業をし始めた各企業を動かし、出資協力を得、工事費を賄い、遂に「市民生活の向上」と「産業の発展」という、双方に資する、川崎町水道が誕生したのでした。

上水道が完成し、産業とともに町が発展していく矢先、今から 101 年前の大正 12 年関東大震災が発生し、震災後の衛生環境の悪化等により、伝染病が流行り、近隣の大師町・御幸村が、川崎町の良質な上水の供給を求めたことを契機に、3 町村が合併し、大正 13 年 7 月 1 日、川崎市が誕生しました。

上水道の敷設の挑戦をやり遂げた石井泰助氏が初代川崎市長になり、市制施行の実現に奔走した森安治郎氏が、初代川崎市議会議長になりました。こうして川崎市の歴史をつくってきた先人達が、

当時の常識では考えられない挑戦をやり遂げてくれたからこそ、我が国の工業発展の象徴である京浜工業地帯があり、今や人口 155 万人の大都市へと変貌を遂げた、今日の川崎市があります。

以来 100 年間、川崎市は、日本の成長モデルをつくり、発展し続ける街になったのは、沖縄から多くの方々が川崎の紡績工場に就職した歴史をはじめ、国内、国外から多くの人々が川崎市を選んでこの街に住み、お互いを認め、多様性を育み、一人ひとりが挑戦し、頑張ってきたからです。

そして 100 年前の先人達の挑戦した勇気が、今も連綿と続いていることが、川崎市にとって誇りであり、大切な宝であります。

一例をあげれば、市民チームである川崎フロンターレの名前の由来には、「常に最前線で挑戦し続けるフロンティアスピリッツ（開拓精神）」と表現されており、そうした表現が川崎市のスポーツ、文化、芸術、産業のあらゆるところに、今も示されています。改めて素晴らしい街に御縁をいただいていることに感謝いたします。

最後に、我々も、次の世代へつなげていくために、これから先の 100 年の未来へ目を向けると、特に地球規模のますます複雑・多様化するエネルギー問題、気候変動問題などに挑戦していかなければなりません。幸い、ここ川崎市には、先人達から受け継いできた挑戦するマインドと、新たなエネルギーとしての水素の活用、量子技術を用いた気候変動シミュレーションや創薬の開発、再生医療やナノ医療等による難病克服など、無限のポテンシャルがあります。川崎市がそのポテンシャルをもって課題を解決し、克服することによって、日本が抱える課題の解決につながると確信しており、その強みは世界に貢献できるものと信じております。

結びに、本日この場で皆様と、100 年前の川崎誕生以来の経緯と、川崎市を作り上げた想いを共有できる機会をいただいたことに、感謝の念に堪えません。

川崎市議会は、市制 100 周年という節目から、次の 100 年の未来へ向かって、先人達から受け継いだ「挑戦」するマインドをもって、皆様と共感し、共に歩む議会として、これからも皆様と共に挑戦し続けてまいります。

皆様の今後のさらなる御活躍と御発展を御祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。



6月29日、ブルーインパルスが川崎市の空を飛びました。市民全員で空を見上げ、未来を考えるきっかけを創りたいと考え、2022年7月に宮城県松島基地に直談判。2年間、多くの方に助けていただいていた実現したものです。羽田空港が近いことで、様々な規制があり、何度も調整を重ね、最後は天気が味方しました。轟音と歓声、市民の皆様とワクワクと空を眺めた、忘れ難い一瞬です。

私は「ライブ感」を活動の指針としています。人が感動したり、感動させられたりすること。現場は、ライブの連続です。「政策と実装」、「理想と現場」を往復しながら、汗をかいて、手作りでやってきました。今回のブルーインパルス飛行により、皆様に「ライブ感」をお届けできていれば幸いです。

令和6年7月 川崎市議会議員 青木のりお



©Sakata Yoshihiro (THINGS.)

花と緑の祭典

全国都市緑化かわさきフェア

会場
富士見公園
等々力緑地
生田緑地

秋 令和6年 10月19日(土)~11月17日(日)

春 令和7年 3月22日(土)~4月13日(日)

生田緑地
「歴史・文化」
×
みどり

等々力緑地
「体験・体感」
×
みどり

富士見公園
「多様性」
×
みどり

南部から北部まで、地域ごとに様々な顔を持つ川崎の多様な魅力や強みを発信するため、**市域全体を会場**として捉えて、各区それぞれの**地域資源を活かした個性的な取組を展開**します!

全国初となる2期開催として、3つのコア会場で開催されます!